

緩和ケア病棟の現状把握について

目的

今後の東京都の緩和ケア医療提供体制のあり方検討に向け、既存の緩和ケア病棟の現状を調査し、制度検討の参考とする

実施手法等

<東京都がん医療等に係る実態調査（東京都における緩和ケアに関する実態調査）考察より>

「緩和ケア病棟や一般病床が現実にもどのように使われているかを踏まえ、その役割を明確化するとともに、病床の機能分化を推進していく必要がある。」

⇒主に緩和ケア病棟や一般病床での緩和ケアの現状把握を目的とし、緩和ケア病棟のある病院にアンケート調査を行う。

<実施時期及び実施方法>

令和3年6月に、対象病院にメールにてアンケート調査票を送付し、回答を回収

<対象病院>

緩和ケア病棟入院料ⅠまたはⅡの算定を行っている施設（令和3年6月1日時点、33施設）

⇒28病院より回答有（回答率約85%）

<主な質問項目>

○緩和ケア病棟での受け入れ患者の想定

○緩和ケア病棟への患者入院ルート

○緩和ケア病棟の退院患者の転帰

○一般病棟での緩和ケア患者の受入状況

○緊急受入対応の実績

○緩和ケア外来の実施状況

など

○緩和ケア病棟での実績

○緩和ケア病棟の平均在院日数

○緩和ケア病棟からの退院に向けた支援の取組

○一般病棟と緩和ケア病棟での受け入れ患者や治療内容の違い

○緊急受入対応の体制及び条件

■緩和ケア病棟の現状把握について

※回復期とは、拠点病院等で手術等の初期治療を終え比較的症状が安定した状態という意味
 ※下記 (A)(B)の分類は、緩和ケア病棟入院料(I)(II)に対応するものではない

資料 3

機能分化における観点		緩和ケア病棟 (A)	緩和ケア病棟 (B)	都の目指す病院機能の方向性
病床規模		中～大規模	小規模	小～中規模
患者像	主な患者の病態 (病期)	終末期の患者 (予後 1 ヶ月～3 ヶ月)		回復期患者 (治療継続・病状緩和)
	主な患者の転帰	死亡退院 (平均在院日数30日未満)		在宅移行 (通院治療・在宅療養)
	患者の紹介元	他病院 (主に拠点病院等) 自院内からの転棟	他病院 (拠点・非拠点両方)	他病院 (主に拠点病院等)
病棟形態	緩和ケア病棟	○ (事前予約制・より高度な緩和処置が可)		—
	一般病棟	○ (緊急入院患者受入や緩和ケア病棟満床時に利用)		○
	地域包括ケア病棟	△		○
病床機能	基本的緩和ケア	○		○
	専門的緩和ケア	○ (緩和ケアチーム有) 緩和ケアチームの体制がより整備	○ (緩和ケアチーム有)	△ (緩和ケアチーム無)
	患者の看取り	○		×
	在宅移行支援 (診療所等との連携)	○	○ 在宅緩和ケアとの連携	○ 在宅医等との連携
	在宅移行支援 (リハビリ)	△		○
	緊急入院対応	○ (既に入院や外来受診歴が有る患者)		○
	レスパイトケア	△		○
	外来での緩和ケア (症状緩和目的)	○ 専門的な緩和ケア外来	○ 専門的な緩和ケア外来	○ 疼痛緩和・支持療法など

資料 4 へ